

9 . 麻疹について

1.原因及び感染経路

麻疹ウイルスの飛沫により空中の飛び散ったウイルスを吸い込んだり、接触する事で感染します。好発年齢は1～5才ですが、最近では20～40才にも流行しました。予防接種ワクチンを投与されていても10年くらいで免疫が低下するためです。

今までならば麻疹の流行で何らかの接触で再度免疫をつける機会があったのですが、麻疹の減少でそういう野生ウイルスに接触する事が少なくなるため自然に免疫が低下します。ですからワクチンを受けていても10年以上経過していれば免疫が低下している場合もあります。

検査する方法がありますので医師に相談してください。

2.ケアの具体的方法と注意

- ・ 時期は4～6月に多く、経過は一般的にカタル期、発疹期、回復期を経て回復します。潜伏期間は10～12日です。
- ・ カタル期には、3～4日で発熱、咳、鼻汁、くしゃみ、結膜炎、目脂などの症状をおこし、頬粘膜の白歯に相応する部分に粟粒大の白斑ができます。
- ・ その後2日ほどで皮膚の発疹がでます。発疹期といいます。このころ、熱、咳、鼻汁、くしゃみ、結膜炎や目脂はさらにひどくなります。少しの刺激で咳き込みにつながったりするので刺激の少ないものをやわらかくして摂取しましょう。冷たい空気をすったりしないように保温に留意しましょう。栄養、水分をしっかりと摂りましょう。
- ・ 発疹は耳の後ろ、顔、項、体、手足など頭以外の全身に広がり、大きさは粟粒大、米粒大やエンドウ大、やや隆起しているのが融合して不規則な形になります。痒くても引っ掻いたりしないようにしましょう。感染しないように清潔にしましょう。
- ・ 色は、初めはバラ色で暗赤色になり4～5日で暗褐色になります。この時期はもっとも症状がきつく、時にはけいれんや呼吸困難を起こす事もあります。この時期が4～5日続いてから症状がゆるくなります。
- ・ 完全に回復するには解熱してから7～10日かかります。ですから、熱が下がってから7日くらいするまで、なるべく外にでないように他の人に接触するのを少なくしましょう。
- ・ 基本的には、安静と栄養と保温が必要です。合併症の予防です。
- ・ 合併症としては中耳炎、気管支炎、肺炎、結核罹患、脳炎、など。症状は合併症を併発するどうかでかなり異なります。

3. 家族への説明

過去に麻疹の免疫がない方が明らかに麻疹の人と接触した場合は感染率も高く、重症化する危険率が高いので、医師に連絡して指示をきくようにしてください。

また、罹患した人は人の多いところに行かないようにすることが感染を防ぐ意味で大切です。特に乳幼児や妊婦などに接触しないようにしましょう。

4. 家族への安全対策

ご家族の方は免疫のない方は罹患すると思っけていてください。

免疫のない人は医師と相談してください。ワクチンやガンマグロブリンを使用することで予防する事もできます。過去にワクチンを受けているかどうか、かかったことがあるかどうかを知っておく事が重要です。また、その情報を速やかに医師に提供し適切な処置を受けてください。

5. その他

合併症を併発しなければ経過をたどり回復に向かいますが、持病のある方などは麻疹を機会に悪化する事もあるので侮る事は危険です。また、病院や診療所に行く事で感染を拡げる事にもなります。あらかじめ、電話や家族の方が相談しに行くなり気配りが感染を最小限にするポイントです。